

# SEEDS

 知床財団  
SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

No.220 秋号  
2013 /

自然特集

## 私たちが見つけた羅臼湖の魅力

活動レポート

### 冬のエゾシカの行動を探る

>>知床・人・インタビュー 第17回  
涌坂 周一さん

>>スタッフの本棚 第10回  
葉でわかる樹木 625種の検索

>>知床財団 購買部  
知床財団オリジナル 知床カレンダー2014

>>スタッフは見た！ 第7回  
知床でカブトムシのなる木、見つけました！



急斜面で薬が半効き状態のメスジカ（羅臼 35 番）に抱きつき、押し倒しにかかる石名坂。ちなみに体重は彼女の方が重い。

GPS首輪を装着するためには、まずはシカを麻酔銃で捕まえなくてはいけません。当財団所有の麻酔銃は、デンマーク製のスコープ付き。命中精度の高い銃ですが、それでも野外での有効射程距離は最大25メートル程度です。国立公園内のシカの警戒心は低いとはいえ、その距離まで近づくのはけつこう大変です。レーザー距離計を首からぶら下げ、麻酔銃を担いで雪深い斜面をのぼり、シカの頭上に回りこんだつもりでいた

### 体当たりの捕獲作業

ら相手はとっくに遠くへ逃げていった…なんてこともあります。また、

急斜面にいるシカは「こんなところで寝ちゃダメ！」という意識が働くのか、薬が効いてフラフラしてもなかなかすぐに寝てくれませ

ん。状況によっては、急斜面での

追跡、ヘッドロックでのさえこ

み、手持ちの注射器による麻酔薬

の追加注射などが必要です。その

上で、やっと首輪装着作業がはじまります。大型動物の生け捕りには、体力と度胸（？）が必要なのです。

### 捕獲方法

① 麻酔銃で目標のシカをねらう。

② 10～15分程度するとシカがぶらつき、やがて座り込んで寝る。そこ

でようやくGPS首輪の装着作業開始。耳には番号の書かれたプラスチックのピアス（タグ）を装着。

③ 首輪を装着し、耳タグをつけ終

わったら、麻酔から早く目覚めるための薬を注射し、その場を離れしばらく様子を見る。

④ 無事麻酔から目覚めて問題ないことを確認して、捕獲作業終了。



写真：  
(上) シカとの距離をはかるスタッフ  
(中) 麻酔銃をかまえるスタッフ  
(左下) 耳タグを装着されるシカ  
(右下) GPS首輪を装着され、麻酔からさめたシカ



## 活動レポート 冬のエゾシカの行動を探る

知床半島では、これまでに100頭以上のエゾシカが麻酔銃で生け捕りにされ、調査のための耳タグや電波発信機が取り付けられてきました。知床財団の職員はそれらの調査の大半に関わってきましたが、詳細な位置情報をたくさん集めることができたGPS首輪をシカに装着した例は、ごくわずかです。

昨冬、当財団の独自調査事業として、知床国立公園（知床世界自然遺産地域）内の羅臼側で2頭、同斜里側で2頭の計4頭のメスジカにGPS首輪を装着し、多くの位置情報を得ることによって、冬のエゾシカの行動範囲を詳しく把握することを試みました。

実は、これら4頭を生け捕りした地区は、生態系を守るためにエゾシカ捕獲が環境省事業として実施されている場所です。エゾシカの捕獲事業は道内各地で実施されていますが、知床半島においても様々な手法で捕獲が進められています。請負事業者として現場での捕獲作業を最前線で担っている知床財団も、日々試行錯誤しながら

業務に取り組んでおり、今回、首輪をつけたエゾシカの行動範囲を把握することで捕獲の効率化につなげたいという意図もありました。そして調査の結果、大変興味深いデータが得られましたので、その概要を報告いたします。

—文—  
石名坂豪 保護管理研究係主任

今年から長年の羅臼側勤務より斜里側へ異動。なぜか事務所に来る時は自販機で缶コーヒーと緑茶をセットで買ってからやってくる。

## シカの行動追跡結果

今回シカに装着したGPS首輪は、位置情報を1時間ごとに記録・蓄積しており、シカが近くにいる時に専用の機械を使うと遠隔操作で首輪からデータを吸い上げることができます。そうして得られた結果の一覧を図でご紹介します。

## 斜里 13AD03 番のひと冬

### 斜里 13AD03 番のひと冬

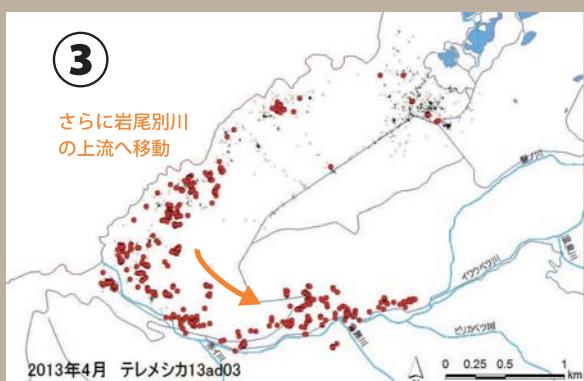
斜里側の岩尾別地区で捕獲したメス成獣2頭のうちの1頭（13AD03番）は、知床五湖の冬期工事のために除雪された道路も利用して、知床五湖架木道付近の草原と海岸沿いの断崖上の草原との間の比較的広い範囲（といっても3平方キロメートル程度）を雪深い2月にも行き来していました。3月下旬に徐々に雪がとけてくると、岩尾別川河口付近にいることが多くなり、4月にさらに雪解けが進むと、岩尾別川沿いに上流方向へ行動圏がシフトしていました。もう1頭は、基本的に捕獲場所と同じ場所である岩尾別川沿いのせまい範囲で生活していましたが、同じく4月には岩尾別川沿いに上流方向へ行動圏を拡げていました。



斜里 13AD03 番



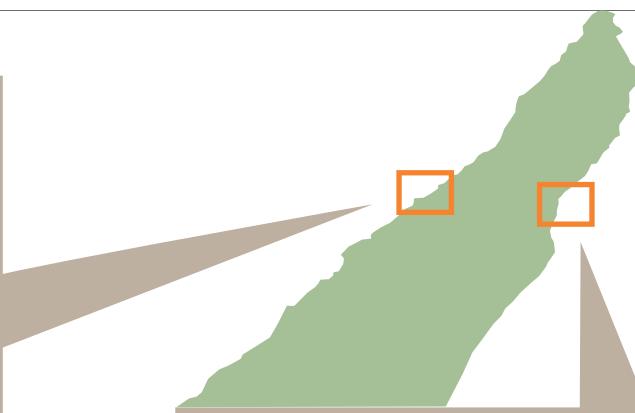
2013年2月



2013年4月



2013年3月



羅臼 35 番

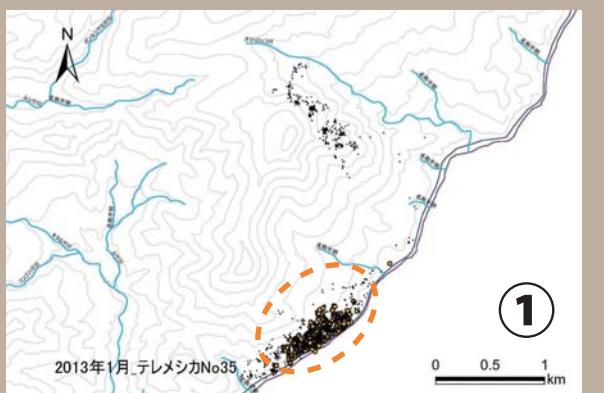


羅臼側のルサ・相泊地区で捕獲したメス成獣2頭のうち、1頭（35番）の冬の基本的な行動圏は海岸付近の面積1平方キロメートル

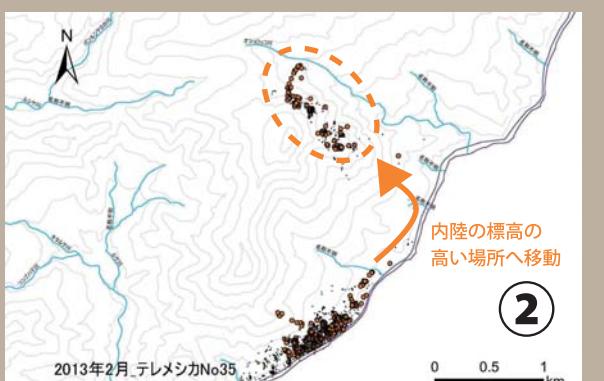
未満のせまい範囲でした。しかし2月下旬～3月中旬の3週間だけ、標高300～450メートルと少し標高の高い場所に一時的に滞在し、雪解けや雪崩により海岸沿いの斜面でササが露出し始めると、元の海岸付近に戻っていました。もう1頭は冬の間中、1平方キロメートル未満のせまい範囲で生活していました。

海岸沿いの斜面でササが露

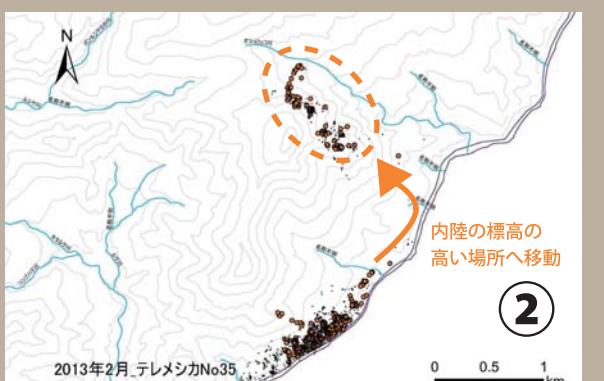
## 羅臼 35 番のひと冬



2013年1月



2013年4月



2013年2月

ちに与えてくれました。羅臼側のルサ・相泊地区では、①厳冬期の捕獲はシカの冬山登山のせいで効率が悪い可能性があること、②4月が道路沿いでの捕獲の適期であること。一方、斜里側の岩尾別地区では、①海岸の断崖上草原のシカを道路沿いへ誘引することは厳冬期でも不可能ではないこと、②3月には岩尾別川河口にシカが集まること、③4月に岩尾別川沿いで捕獲しやすい可能性があること、などがデータに裏付けられる形で見えてきました。

岩尾別地区は100平方メートル運動地ですので、ここで効率的なシカ捕獲は、運動地の森林を再生するために非常に有用なことです。GPS首輪は1台の価格が数十万円と大変高価なため、多数のシカに装着することにはなかなかできません。しかし、たとえ少数個体であっても、GPS首輪を動物につけるかなりの情報量が得られるということを、今回改めて実感しました。このような独自調査事業は、賛助会員の皆様からの年会費や寄付金があり、はじめて実施できるものです。ここに改めて深く感謝申し上げます。

知床のエゾシカは厳しい冬の間、ごくせまい範囲でじっと我慢したり、細い脚でも雪を掘つてササを食べやすいような場所を求めて少しだけ移動したりしながら、春を待ちわびているのでしょうか。雪のとけない厳冬期には半島東側（羅臼側）では南東向きの海岸沿い斜面よりも高い山の方が、半島西側（斜里側）では海岸沿いの断崖上が、シカの餌場になりやすいようです。

冬の知床では北西の季節風が強いため、半島東側では、海岸沿いの斜面は厳冬期には雪がとけずにむしろ吹きだまりやすく、少し山の上の方へあがった方が北西の風が激しく当たる斜面があり、雪の中からササを掘り出しやすいようです。一方、半島西側では海岸沿いの断崖上、特に縁の方で雪が風に飛ばされやすく、シカにとってはササが掘りやすくなるということが餌場選定の理由のようです。北西の季節風が知床の冬を支配していることを実感します。

また、今回4頭のGPS首輪から得られた調査結果は、捕獲作業の効率化のために重要なヒントを、私たちに与えてくれました。羅臼側のルサ・相泊地区では、①厳冬期の捕獲はシカの冬山登山のせいで効率が悪い可能性があること、②4月が道路沿いでの捕獲の適期であること。一方、斜里側の岩尾別地区では、①海岸の断崖上草原のシカを道路沿いへ誘引することは厳冬期でも不可能ではないこと、②3月には岩尾別川河口にシカが集まること、③4月に岩尾別川沿いで捕獲しやすい可能性があること、などがデータに裏付けられる形で見えてきました。

## GPS首輪が教えてくれたこと